村と町の暮らしと文化を結ぶ 秋の体験交流企画

消費者行動ネットワーク事務局長　外山 孝司

９月13日（土）＆14日（日）長野県飯島町で「村と町の暮らしと文化を結ぶ　秋の体験交流企画」を開催しました。

13日（ 土）午後　中川村村長　曽我逸郎さんからお話を聞く機会を持ちました。

私（曽我さん）は京都大学文学部で仏教哲学を専攻。卒業後電通に入社して、大阪・香港・名古屋で勤務し、香港滞在中に香港人の「他人や国に頼らず、自分の人生は自分で決める」という生き方に刺激を受け、自分は本来仏教を研究しながら田舎暮らしを志向していたということを思い出し、たまたま訪れた中川村という小さな村の住民の気質が気に入って、２００２年電通を退社して中川村に入村し農業を営むことになりました。当時の中川村は平成の大合併論争の真っ只中で、合併反対運動を手伝ったこともあって、町長選に担がれて当選。

２０１２年６月に定例村議会一般質問で「村長は卒業式や入学式で国旗に一礼をしとらんようだが、何か考えがあるのか」と問われ、「国を誇りに思う気持ちは、誇れる国を創れれば自然に生まれる。国旗への一礼を押し付ける空気は、思考や行動を型にはめて萎縮させ、誇れる国にすることを妨げることになり、かえって日本の足を引っ張ることになる。頭ごなしに押しつけ型にはめようとする風潮（強制の空気）がある内は、私としては国旗への一礼はなるべく控えようと考えております。」といった趣旨の答弁をし、KY（空気を読め）という言葉が流行ったのは最近のことですが、日本の民主主義は多数派支配原則で、多くは言葉での説明と議論が不足する中で、空気と雰囲気で決定されることが多いですが、その空気支配（空気に流される行動）の象徴が、国旗への一礼や国歌斉唱であり、改めて自分の言葉で考え議論して物事を決めようという考え方の大切さについて広く発信したいとホームページにも掲載したところ、マスコミでも注目されました。

２００８年３月に憲法九条を守る首長会に参加、２０１０年１月に行政公式ホームページを利用して「無防備都市宣言」を発議、２０１１年２月に環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）参加反対の村内９団体で構成される実行委員会代表に就き、２０１２年４月には脱原発をめざす首長会議に参加するなど、「誰もが考えを自由に表明しあい、あるべき日本、目指すべき日本をみんなで模索しあうことによって、本当に誇りにできる日本、世界から敬愛され信頼される日本が築かれる。」という考えのもとに行動しています。

13日(土) 夜　一幕劇「 人を喰った話」を地元のみなさんと一緒に楽しみました。

この劇は、チェーホフ原作・下村正夫脚色「結末のない話」を底本にして、劇作家の宮本研が作った一幕もののファルス（笑劇）です。荒筋は . . .

ある小さな町の検事局。その一室で取り調べを受けるおかね婆さん（いのこ福与）。どうやら警察官を川に投げ込みケガを負わせた公務執行妨害の罪に問われているらしいです。事実関係を聞き出そうと質問を浴びせる検事。しかし、質問をすればするほど難解な答が。婆さんは検事の使う刑法第何条という説明は理解できずにちんぷんかんぷんの様子で、取り調べははかどりません。書記が婆さんの方言と検事の法律用語を同時通訳しますが、話は横道へ横道へとそれて行きます。肝心のおかね婆さんは罪の意識などまったく感じていません。取り調べを受けているにもかかわらず、まるでお茶のみ話をしに来たかのような話しぶりです。挙句の果てに、これから汽車に乗って娘のお産に行くと言い出す始末。突拍子もない話に面を食らう検事と書記。婆さんの方言での答弁に、理解できない検事の仕草は特におもしろいです。婆さんと検事との攻防は如何に？そして正義はどっちだ？

みんなお腹を抱えて、これ以上笑えないというくらい笑いに笑いました。

14日(日) 午前　三浦さんのぶどう園でおいしいぶどう試食しながら交流しました。

三浦さんご夫婦は二人ともコープあいちの元職員です。二人は二つのアルプスが眺望できるこの地が気に入って移住し、ぶどう作りをしています。

ぶどう園には今人気の皮ごと食べられる種無しぶどうの“ナガノパープル”と“シャインマスカット”がたわわに実っていました。それを見てみんなの目はもう歓喜の光。また食べると濃厚な甘みが口一杯に広がって、幸せ〜！！

試食しながら、三浦さんからぶどう作りの苦労話など聞きて交流し、帰る時には、みんなお土産に買ったぶどうで両手が塞がっていました。

ブドウ園の前で、みんなで集合写真を撮りました。

村と町の暮らしと文化を結ぶ
秋の体験交流企画に参加して

ＣＡＮ他４団体で９月13日（土）14日（日）「村と町の暮らしと文化を結ぶ　秋の体験交流企画」を行った。全体では名古屋からマイクロバス一杯＋現地の皆さんで約40名参加だった。

飯島町の農業体験・宿泊施設「アグリネーチャーいいじま」を拠点として、まず近隣を流れる急流与太（よた）切（きり）川（かわ）をマイクロバスで遡り、山岳ガイドの知久（ちく）平（たいら）さんから標高約800mにある砂防ダム周辺の植生の説明を受けました。伊那谷の特徴として人工林の荒廃による斜面崩壊と土砂流出が多く砂防工事、治山工事が盛んに行われているが、間伐はコスト面で進んでおらず実施した所も搬出に経費がかかりすぎるので現地に切り捨て存置としている。　飯島町は農業が基幹産業で特に蕎麦は長野県内向け種子供給地として有名。県内どこで食べる蕎麦でも元は飯島産ということ。訪問時はそばの花が見ごろだった。

続いてアグリネーチャーに戻り、飯島町の隣の中川村から名物村長といわれる曽我村長さんの話を聞いた。名物といわれるのは関西出身でありながら中川村という小さな村に住み着き、村長にな

り、村長でありながら”国旗に敬礼しない”に代表される独特のポリシーが全国紙に紹介されたから。

中川村に住み着き村長になった理由がそもそも変わっている。

【たまたま】広告会社の営業として香港に滞在して香港人の「他人、国に頼らない。自分の人生は自分で決める」という生き方に刺激を受け、自分を振り返り、本来は仏教を研究しながら田舎暮らしを志向していたことを思い返して会社を退社。

【たまたま】訪れた中川村の住民の気質が気に入り入村。

【たまたま】当時の中川村は平成の大合併論争の真最中。合併反対運動を手伝ったが、住民投票では合併するとなった。しかし、合併先を予定していた市町から合併を拒否されるという展開に。

【たまたま】直後に町長選となり暇そうと思われていた（本人談）曽我さんが知名度ゼロで担がれた。【たまたま】結果的に当選。発言の重みが増して、国旗などに関する発言がマスコミに乗るという結果となった。

しかし、日の丸発言については日本に多い空気支配（空気に流される行動）の象徴でなぜ国旗に礼をするのか言葉で考えていない典型だと考え、言葉で考えるアピールとしての行動という。日本の民主主義は多数派支配原則であるが多くは言葉での説明と議論が不足し空気・雰囲気での決定が多いと思う。地方政治を通じて言葉による地方自治に貢献したいと考えている。

質疑では、地域振興について意見を聞いた。中川村は人口約５千人で漸減中。しかし、転入希望者は多いとのこと。一つは退職後の生活を田舎でという人たち。特徴としてある程度のお金を持っている。もう一つはお金を持っていない若年層。どちらも実際に田舎暮らしをしようとする場合、近所づきあいの密度に対応できるかが課題となる。

一方、受け入れ側も問題がある。転入希望者には空き家を紹介するが貸し手希望は少ない。他人に家を貸す面倒を嫌うからのようだ。

※中川村ホームページでは古民家貸出、団地分譲案内もしているが９月下旬時点では貸出可能民家ゼロ、分譲課の土地１件。なお、ホームページでは移住する場合の手続き、課題などをフローチャートで紹介しているが、これが役場のホームページとは思えない地元の本音ベースで書かれているので面白くて実務的だ。

結果として工芸家のような人が転入している。村民はお祭りなど楽しい企画を年中やっている。しかし、訪問者に喜んで酒を振る舞うが料金は取らないなどビジネス化（もうけにつながる）が下手だ。これからはもっと楽しい企画を増やして訪問者を増やして活性化につなげたい。

今、人口減対応として国はコンパクトシティを志向している。中川村は小さい村だが補助がつかなくても自力でコンパクトシティ以外の方法で工芸家のような若者に来てもらえる地域づくりをしていきたい。

村長の言葉による説明と議論で物事を決めようという考え方には改めて考えさせられた。周りの空気に流されて自分の言葉で考えてこなかったことが多くあったと思う。ＫＹ（空気読め）という言葉が流行ったのは最近のことだ。改めて言葉の大切さを思った。

事務局：山本